

こやまじょうあと

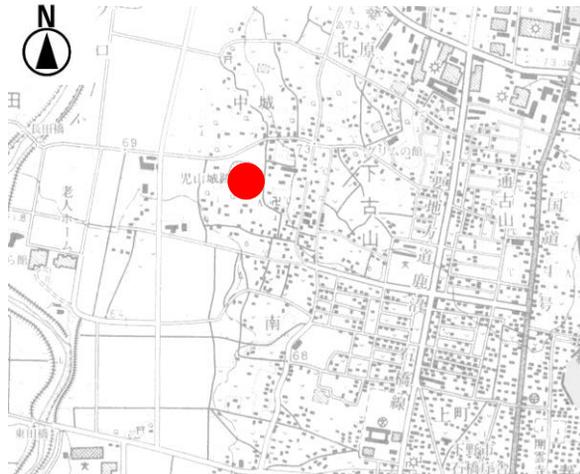
# 児山城跡の発掘調査(R1)

—範囲内容確認調査—

## 【児山城跡の概要】 栃木県指定史跡(昭和36年5月6日指定)

児山城跡は、姿川東岸の台地端部に所在しています。自然の地形を巧みに利用した平城で、鎌倉時代の後期(約700年前)に多功城主(上三川町)、多功宗朝(むねとも)の次男朝定(ともさだ)により築城されたと伝えられます。城の遺構は本丸(主郭部)を中心に良く残っており、本丸の堀と土塁(どるい)はほぼ全周し、その規模は東西約80m、南北約90mに及びます。また、本丸以外にも部分的に郭(くるわ)や堀、土塁の痕跡が確認できることから、かなりの規模の城郭であったことが想定されます。

児山城の全容解明のため、平成28年度より遺構の範囲と遺存状況を確認するための調査をおこなっています。



## 【発掘調査の概要】

### ①これまでの調査

平成29・30年度の調査では、第2郭(だいにかく)東部の範囲確認を目的として、第2郭と第2堀の規模の確認を行いました。この調査によって、第2郭の堀側に土塁が造られていること、第2堀の底面が6m以上もある箱堀(はこぼり)であることがわかりました。また、古い時期の堀を埋めて第2郭を造成していること、第2堀の南側では箱堀の時期とは別に薬研堀(やげんぼり)が造られていることから、城を拡張するための土木工事が何度も行われていたことがわかりました。

### ②令和元年度の調査

令和元年度は、児山城跡の西側の範囲確認を目的として第2郭南西部の利用状況、第2堀西部の位置の確認を実施しました。

第2郭南西部では、郭の南側(堀側)で土塁の基底部を確認しました。郭南西部では土塁が0.8mほどの高さで残っており、土(ローム)や3cm大の小石を突き固めて土塁を作っていたことがわかりました。

第2堀西側は、上幅が15mにも及ぶことが明らかになりました。これにより、第2堀が東西170mに及ぶことが判明しました。また、堀は最終的に堀の西側(第3郭)から埋め戻されていました。埋め戻しの際に、第2郭南西部の土塁と大きさの小石で埋め戻されており、第3郭に存在した土塁を壊して堀を埋めた可能性があることがわかりました。



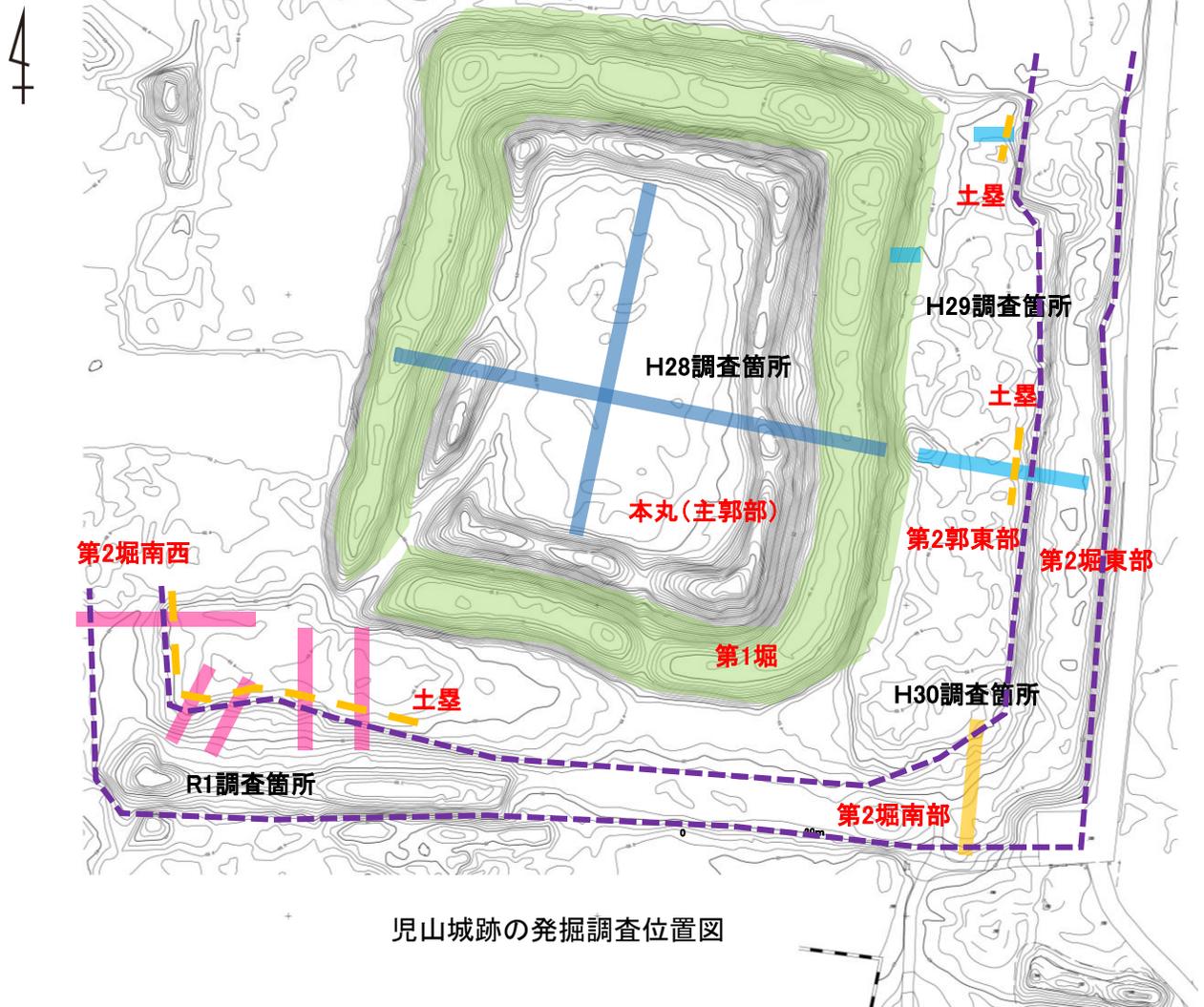
第2郭南東部の土塁(北西から)



第2堀西部(西から)



国土地理院 米軍撮影航空写真 1948



児山城跡の発掘調査位置図

児山城跡発掘調査概要 (2020.3)  
 編集・発行 下野市教育委員会文化財課  
 〒329-0492 栃木県下野市笹原26  
 TEL 0285-32-6105  
 bunkazai@city.shimotsuke.lg.jp

